

セントラルパーク基本構想（素案） 概要

浜松城公園（浜松城跡）を中心にした区域は、市民の憩いの場や、観光拠点でもあるが、美術館などの市民文化の発信拠点としても重要な役割を担っており、新たな魅力ある都市・都心づくりの重要な核となっている。

そのため、歴史的・文化的な観点を活かし、政令指定都市に相応しい、市民が誇ることのできるセントラルパークの整備が重要となっている。

そこで、本構想において、今後の100年を見据え、都市機能の充実を図り、浜松市のセントラルパークの基本的な姿を示すものとする。



1 全体構想（テーマ）

セントラルパークは、浜松城の歴史を継承し、様々な人が出会い、感動をうみ、季節の移ろいや新たな時間を刻む中で自然や文化を発見できる場となることを目指す。さらに、市民との関わりの中で共に成長し、市民のまちに対する親しみや愛着が生まれ、市民文化の杜の形成を目指す。

テーマ 歴史の継承・市民文化創造の杜

2 基本方針

豊かな自然を活かし、歴史や文化に触れ、理解を深め、さらに、訪れる人々に安らぎや感動を与えるセントラルパークになるよう、基本方針を設定する。

① 場の記憶を活かす公園

- ・歴史が刻まれた地形や都市における貴重なみどりを保全する。
- ・市民が誇ることのできる場所とするため、浜松城を将来にわたって継承していく。
- ・浜松城の景観を最大限に活かし、歴史的な景観を重視した眺望景観の保全・育成を図る。

② 浜松の核となる公園

- ・緑や浜松城跡の歴史・文化を感受することで、核となるような公園を目指す。
- ・浜松の文化や芸術活動の核となる施設整備により、周辺文化施設との連携を目指す。
- ・生態系や都市環境の保全に供するみどりとして将来へ継承する。
- ・浜松城跡を活かしたまちなかの眺望景観を形成し、浜松城のシンボル性を高めていく。
- ・防災に資する広域防災公園の核となるべき拠点公園を目指す。

③ 市民と共に成長する公園

- ・市民が管理運営に関わることで、市民と共につくっていく仕組みをもつ。
- ・時間をかけながらも着実に地域に根付く公園を形成していく。
- ・公園を中心に生まれる市民活動が、中心市街地へと波及していくよう整備・運営を行う。

3 構想の基本的な考え方

(1) 歴史の継承の考え方

- ① 「浜松城公園歴史ゾーン整備基本計画」に沿った整備を進める。
- ② 「浜松城公園歴史ゾーン整備基本計画」の中の南エントランスゾーンの整備については、新たな本構想との整合性を図る。
- ③ 新たな施設の整備を計画している部分については、必要な範囲内で地下に埋蔵された遺構の調査を早期に行う。発見された遺構については、各ゾーンのあり方に沿って施設の整備計画の中で十分に考慮する。
- ④ 公園整備にあたっては、調査成果に基づき、可能な限り遺構の価値を来訪者に伝えるための整備（復原、位置表示、解説等）を行い、歴史の継承に努める。
- ⑤ 新たな施設や植栽は、主な視点場から浜松城の石垣、天守閣、復原建物への眺望を妨げないように配慮する。
- ⑥ 来訪者に浜松城の歴史を広く知らせる機能を持つ施設を計画する。

(2) 導入施設の検討

① 現在の機能を存続させる施設

それぞれの施設管理・サービスの充実を図り、現在の機能を存続させる。

- ・中央芝生広場 ・せせらぎ、せせらぎ池 ・作左の森、展望広場、石舞台 ・日本庭園
- ・浜松城天守 ・浜松市茶室松韻亭

② 機能は存続させるが、再整備する施設

現在の施設では機能が十分に発揮できないため、再整備を実施する。

- ・新美術館 現美術館は、他の用途に転用 ・文芸館 施設の老朽化による再整備
- ・駐車場 文化センター地下駐車場他

③ 新しく導入を図る施設

公園に人々の交流を呼び込む誘引要素となるような施設を導入する。

- ・広場 エントランスゾーンの市民広場 ・歴史文化関連施設 現美術館の転用施設
- ・インフォメーションセンター 浜松紹介施設+休憩施設+管理運営の拠点

④ 公園以外の施設

機能は存続させるが、再整備する施設

- ・小中一貫校 元城小、北小、中部中の三校による小中一貫校

新しく導入を図る施設

- ・文化センター はまホールの代替施設+創造都市への推進施設

⑤ 上記施設の導入により、機能を廃止・移転する施設

- ・冒険広場 子どもの遊び場としては廃止
- ・児童プール 現施設は廃止。移転については今後検討
- ・市役所庁舎 将来的に移転を予定

4 空間構成（ゾーニング）

対象区域の地形、歴史的な空間の役割、現状の土地利用、今後期待される役割等を考慮し、全体を6つのゾーンに区分している。

ここでは、セントラルパークに求められる機能のうち、特に「文化」の個性の強調の仕方により、2案を作成した。（具体的には、新美術館の配置ゾーンの違い）

案1 浜松の文化・芸術活動の拠点機能と自然地形との融合を図る案

案2 浜松の文化・芸術活動の拠点機能をエントランスに集約する案

① エントランスゾーン

案1 浜松城を意識した公園の顔となるエントランスと、賑わいのある交流と市民文化活動の場のゾーン

案2 浜松城を意識した公園の顔となるエントランスと、賑わいのある交流と市民文化活動の場の集約を図るゾーン

〈想定施設〉 浜松城の遺構等、広場、インフォメーションセンター、駐車場
文化センター、新美術館(案2のみ)

② 歴史ゾーン

浜松城の史跡としての価値をPRし、次世代へ継承するとともに訪れる人々がその価値を学び、理解できるゾーン

〈想定施設〉 浜松城天守 等

③ 起伏に富んだ緑のゾーン

案1 変化に富んだ地形と豊かな植生を活かし、都心の中で浜松の自然を実感しながら、文化・芸術活動が繰り広げられるゾーン

案2 変化に富んだ地形と豊かな植生を活かし、都心の中で浜松の自然を実感できるゾーン

〈想定施設〉 新美術館(案1のみ)、歴史文化関連施設、作左の森、展望広場
日本庭園、石舞台

④ 水と広場の開放的なゾーン

多くの市民が気軽に利用できる開放的なレクリエーション空間と落ち着いた水と散策のゾーン

〈想定施設〉 中央芝生広場、せせらぎ、せせらぎ池

⑤ 落ち着いたある文芸ゾーン

賑やかな南側のエリアとは異なり、読書や美術鑑賞などに適した森の中の落ち着いたあるゾーン

〈想定施設〉 文芸施設、茶室松韻亭、日本庭園、駐車場

⑥ 学校ゾーン

多様な公園機能を活用でき、豊かな環境を活かした小中一貫校のゾーン

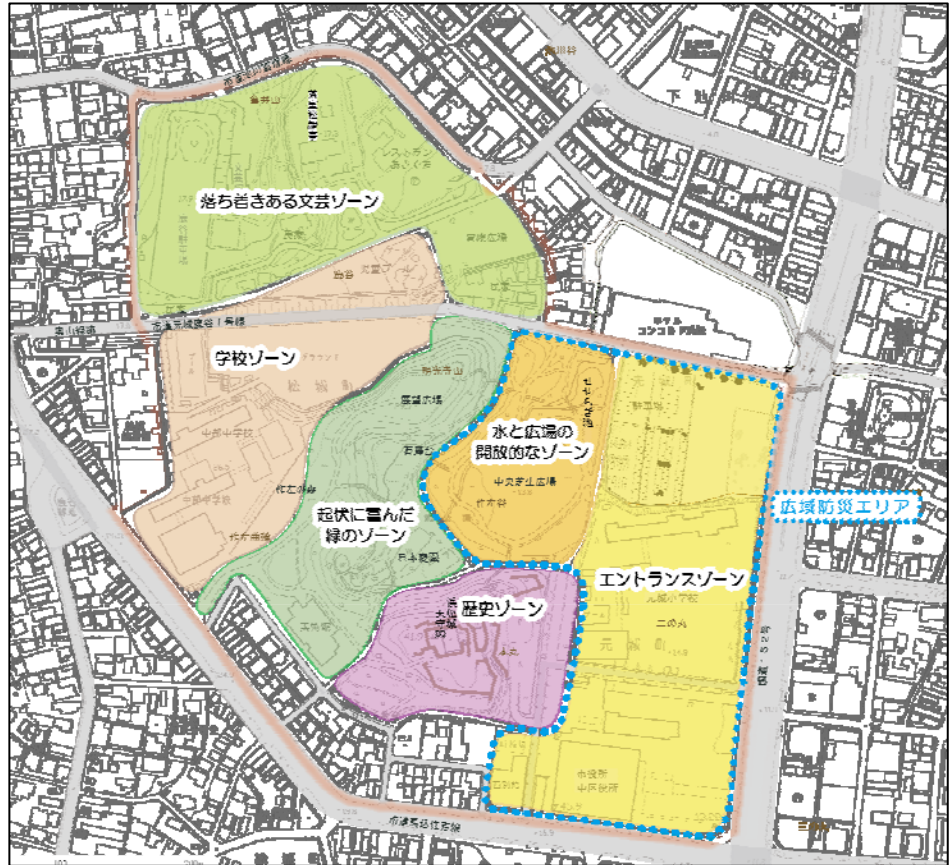
〈想定施設〉 小中一貫校

※ 広域防災エリア

浜松城公園は、大規模災害が発生した場合に広域的な復旧・復興活動の拠点となる広域防災拠点公園に位置づけられている。また、浜松城公園・元城小学校・中部中学校・浜松市役所は、浜松市地域防災計画において、浜松城公園広域避難地にも指定されている。

このことから、構想区域内において「エントランスゾーン」と「水と広場の開放的なゾーン」を防災公園の核となるべき役割を担う広域防災エリアと位置付ける。

ゾーニング図



5 スケジュール

セントラルパークは、基本構想策定後、基本計画の作成に着手し、各施設ごとに基本計画の策定を進めるとともに構想エリア全体としてとりまとめる。

その後のスケジュールは、基本計画を策定する中で調整・検討をしていく。

スケジュール

業務内容	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
基本構想(全体)	基本構想			
基本計画(全体)				基本計画以降のスケジュールは、基本計画を策定する中で調整・検討を行う。
1 公園				
2 新美術館				
3 文化センター				
4 小中一貫校				
5 市庁舎跡地利用		※市庁舎移転は、長期的な視点に立って検討を進める。		
文化財試掘調査		試掘調査 旧体育館・展望広場・作左曲輪		
市民参画		ワークショップ 市民委員 アンケート等		
		パブリックコメント	パブリックコメント	パークマネジメント